

# 愛知県美術館年報



## 目次

### 収集・保存・管理

1	収集	4
	収集方針	
	収集委員会	
	新収蔵品と収集の状況	
	所蔵作品全体の状況	
	美術品等取得基金について	
	寄託	
2	保存	6
	保存事業の実施状況	
3	管理	7
	所蔵作品管理状況	
	作品の管理	
	作品の貸出	
	貸出の概要	
	木村定三コレクションの調査研究および公開	
	藤井達吉関係資料の調査研究および公開	
	コレクション情報の公開	

### 展示・教育普及

1	コレクション展	8
	展示の概要	
	移動美術館	
	サテライト展示	
	愛知県陶磁美術館での長期展示	
2	企画展	12
	企画展の入場者数	
	企画展の開催状況	
3	映像事業	16
	映像上映会	
	アートフィルム・フェスティバル	
	愛知県芸術劇場普及啓発事業	
	愛知芸術文化センター・愛知県美術館オリジナル映像作品の制作	
4	教育普及	18
	教育普及事業の実施状況	
	出版・発行	
	講演会・シンポジウム・展示説明会・関連イベント等	
	各種教育プログラム	
	各種団体による鑑賞への対応	
	博物館実習生の受け入れ指導	
	学生アシスタントの受け入れ指導	
	美術館友の会との協力	

調査研究	22
------	----

防災	26
----	----

ギャラリー（貸館）	27
美術館ギャラリー利用状況	
利用団体一覧	

組織および職員構成	30
-----------	----

関係委員会名簿	31
---------	----

# 収集・保存・管理

## 1 収集

### 収集方針

- ・20世紀の優れた国内外の作品及び20世紀の美術動向を理解する上で役立つ作品
- ・現在を刻印するにふさわしい作品
- ・愛知県としての位置をふまえた特色あるコレクションを形成する作品
- ・上記の作品・作家を理解する上で役立つ資料

### 収集委員会（委員名簿は31頁）

改修工事に伴う休館のため、開催しなかった。

### 新収蔵品と収集の状況

改修工事に伴う休館により収集委員会を開催しなかったため、新収蔵なし。

### 所蔵作品全体の状況（2019（平成31）年3月末現在／単位：件）

区分	日本画	絵画	水彩・素描	彫刻・立体	インスタレーション	版画	写真	映像	工芸	書	考古遺物	資料	合計
	FJ/JJ	FO/JO	FD/JD	FS/JS	FI/JI	FP/JP	FF/JF	FV/JV	FA/JA	FC/JC	FR/JR	FV/JV	
旧館（愛知県文化会館）から引き継いだもの	購入	101	320	238	26	0	64	0	0	0	0	43	792
	寄贈	435	67	75	3	0	44	0	0	952	70	31	1677
	管理換え等	18	15	0	0	0	0	0	0	0	0	9	42
愛知県美術館が日30年度までに収集したもの	基金購入	40	148	141	91	5	320	36	42	1	0	6	830
	寄附金購入	1	6	0	0	0	2	0	0	0	0	0	9
	一般財源購入	0	15	14	12	0	6	0	0	0	0	0	47
	寄贈	642	460	460	319	0	625	214	4	1235	219	239	4671
管理換え等	12	5	0	3	0	2	0	3	5	0	0	13	43
文化情報センターから	管理換え等	0	0	0	0	0	0	0	23	0	0	0	23
以上合計	購入	142	489	393	129	5	392	36	42	1	0	49	1678
	寄贈	1077	527	535	322	0	669	214	4	2187	289	239	6348
	管理換え等	30	20	0	3	0	2	0	26	5	0	22	108
総計	1249	1036	928	454	5	1063	250	72	2193	289	239	356	8134

上記の内、一括コレクションの内訳	藤井達吉コレクション	408	10	3	0	0	10	0	0	957	70	0	19	1477
	木村定三コレクション	582	252	186	228	0	148	0	0	1231	219	239	222	3307
藤井達吉、木村定三コレクション以外	259	774	739	226	5	905	250	72	5	0	0	115	3350	

※「藤井達吉コレクション」:愛知県文化会館の開館（昭和25年）前後に、愛知県出身の工芸家藤井達吉氏（1881-1964）及び同氏の支援団体から寄贈された、同氏の作品を主とするコレクション。

※「木村定三コレクション」:名古屋市の著名な美術品収集家木村定三氏（1913-2003）及び御遺族から寄贈された、同氏のほぼ全コレクション。愛知県美術館本来の収集方針に合致する小川芋銭や熊谷守一などの近・現代美術のほか、重要文化財5件を含む江戸絵画、仏教美術、陶磁器、茶道具、漆工芸、考古遺物など多岐に亘る、日本と東アジア地域の美術を主としている。

## 美術品等取得基金について

愛知県美術館と愛知県陶磁資料館（現愛知県陶磁美術館）が、芸術的価値の高い美術品等を機動的、継続的に収集するための財源として1988（昭和63）年4月に設置された。基金には、県からの積立金のほかに、美術品等の収集を支援する民間からの寄附金が含まれている。

## 運用状況（2019（平成31）年3月末現在）

基金総額		123億4,900万8,927円
運用内訳	美術品	110億2,935万6,127円
	現金	13億1,965万2,800円

\*内、美術館所蔵作品は、839件

## 寄託

### 新規寄託品

2018（平成30）年度には日本画1件、絵画2件の計3件の寄託を受け、絵画1件、彫刻・立体1件の計2件を返却した。

### 寄託品の状況（2019（平成31）年3月末現在）

分類	件数
日本画	46
絵画	101
水彩・素描	91
彫刻・立体	25
版画	142
写真	87
資料	23
計	35所蔵者515件

## 2 保存

### 保存事業の実施状況（2018（平成30）年度）

2018（平成30）年度は前年度に引き続き改修工事に伴う作品移動が行われたため、工事後に貸出や展示の予定がある作品から優先的に状態調査を行い、保存・修復処置の計画を立案した。

#### 平成30（2018）年度 外部委託による保存処置作品一覧

No.	作家名 制作年（時代）	作品名 （技法材料）	分類	処置内容	処置者
1	徳富 満 (2000年)	untitled (unfinished painting) (油彩、画布)	絵画	木枠作成	エーシーエス
2	水谷勇夫 (1965年)	神と獣 ※個人蔵 (ベンガラ、板)	絵画	殺虫・殺菌 (エキヒュームS)	イカリ消毒

#### 平成30（2018）年度 外部委託による詳細状態調査作品一覧（学術調査を目的とした調査研究を含む）

No.	作家名 制作年（時代）	作品名（現在の公開名）	分類	調査項目	目的	依頼先
改修工事のため実施せず						

#### 平成30（2018）年度 保存担当学芸員による保存処置作品一覧

No.	作家名 制作年（時代）	作品名 （技法材料）	種別	処置内容
1	島田卓二 (1924年)	湯谷溪谷「瀨」 (油彩、画布)	絵画	画面の洗浄、額装改善
2	吉田 隆 (1962年)	追想B (油彩、画布)	絵画	額装改善
3	アンリ・マティス (1921-22年)	待つ (油彩、画布)	絵画	画面の洗浄
4	鈴木不知 (1917年)	自画像 (油彩、画布)	絵画	画面の洗浄、浮き上がりの接着、額装改善
5	鬼頭鍋三郎 (1944年)	梧州警備隊（11点） (水彩、紙)	水彩・素描	マット固定
6	後藤純男 (1980年)	春映法隆寺 (紙本着色)	日本画	付着物除去

## 3 管理

### 所蔵作品管理状況（2018（平成30）年度）

#### 作品の管理

改修工事に伴い全所蔵作品の個口数確認を実施したため、これをもって所在確認および管理状況確認作業とした。

#### 作品の貸出

他の美術館等からの展覧会等への貸出要請に対して、作品の保存状態が比較的良好で、コレクション展や移動美術館等の展示計画に支障がないものについて、展覧会の内容やその意義を勘案し、展示施設・設備の状況を確認した上で、所蔵作品貸出要領に則し貸出を行った。

また、このような館外への貸出も所蔵作品公開の機会と位置付け、各会場での入場者状況を調査した。

なお、改修工事に伴い作品の搬出入が困難となるため、2017（平成29）年8月1日から2019（平成31）年3月31日までは原則として貸出しを停止することとして、主要美術館等に通知した。ただし、停止期間より前に搬出し、期間後に返却することが可能となる保管場所と保全体制が確保される場合に限り、1年間を超える貸出を認めた。2019（平成31）年2月1日以降は、貸出作品数の多いところを除き、返却のみ再開した。

#### 貸出の概要（貸出期間 2018（平成30）年4月1日～2019（平成31）年3月31日）

貸出先		件数	作品件数	総入場者数（うち小中生）※
国内	美術館・博物館	17件	232件	521,553人（19,032人）
	県関係機関	4件	44件	
国外	美術館・博物館	0件	0件	
計		21件	276件	

※データは2019（平成31）年3月31日現在。一部、年度をまたいで開催した展覧会を含むが、2018（平成30）年度中に作品が返却された案件について報告する。また、入場者区分・集計範囲は貸出先によって異なるため、小中生数については報告があったものの合計。

#### 木村定三コレクションの調査研究および公開

『研究紀要第25号木村定三コレクション編』を発行し、黒漆厨子（M616）および考古遺物（環頭大刀と耳環）に関する調査研究成果を公開した。

#### 藤井達吉関係資料の調査研究および公開

藤井達吉の作品内の和歌などについて、友の会所蔵作品管理サポート部会の協力を得て、変体仮名の解読作業を継続して行い、その成果をまとめ『研究紀要25号』で公開した。

#### コレクション情報の公開

芸術文化情報システムの第5期導入に伴い、所蔵品管理システムにI.B.Museum SaaSを採用し、コレクションのメタデータを整備した。また、同システムの公開機能を用いてコレクション検索を刷新するとともに、著作権保護期間が満了したいわゆるパブリック・ドメインの作品画像を、閲覧者が自由にダウンロード、複製、再配布等を行えるようにした。

## 1 所蔵作品の展示公開

### (1) コレクション展

#### 展示の概要 (2018 (平成30) 年度)

改修工事に伴う休館のため、開催しなかった。

### (2) 移動美術館

改修工事に伴う休館のため、開催しなかった。

### (3) サテライト展示

#### ア. 愛知県陶磁美術館企画展

「瀬戸陶芸の黎明—創作の源流を辿って—」

会 場：愛知県陶磁美術館

会 期：2018年4月14日（土）～6月17日（日）

出品点数：所蔵作品49点

入場者数：5,124人

#### 出品リスト

番号	作者	作品名	技法・材質	制作年	所蔵
1	藤井達吉	図案集『路傍』	紙本着色	1938年	愛知県美術館(藤井達吉コレクションFT139)
2	藤井達吉	創作染織図案集	紙、木版	1933年	愛知県美術館(藤井達吉コレクションFT140)
3	水野寿山	四方菓子器		1937-38年	愛知県美術館(藤井達吉コレクションFT586)
4	鈴木八郎	葉形皿		1949-50年	愛知県美術館(藤井達吉コレクションFT595)
5	栗木伎茶夫	残雪文四方皿		1949-50年	愛知県美術館(藤井達吉コレクションFT596)
6	河本千春	蓋物		1931-35年頃	愛知県美術館(藤井達吉コレクションFT606)
7	加藤華仙	双魚文花入		1932-46年頃	愛知県美術館(藤井達吉コレクションFT618)
8	河本千春	染付銘々皿		1931-35年頃	愛知県美術館(藤井達吉コレクションFT627)
9	亀井清市	膳揃食器「鳴子百合文銘々皿」		1951年頃	愛知県美術館(藤井達吉コレクションFT628-2)
10	水野双鶴	膳揃食器「鉄絵コーヒー碗・皿」		1951年頃	愛知県美術館(藤井達吉コレクションFT628-4)
11	栗木伎茶夫	膳揃食器「緑彩山手鞠文番茶揃」			愛知県美術館(藤井達吉コレクションFT628-5)
12	加藤滝川	膳揃食器「赤絵岩桔梗文飯茶碗」		1950年頃	愛知県美術館(藤井達吉コレクションFT629-2)
13	水野寿山	膳揃食器「猪口」		1950年頃	愛知県美術館(藤井達吉コレクションFT629-4)
14	加藤英一	膳揃食器「あつもり文刺身皿」		1950年頃	愛知県美術館(藤井達吉コレクションFT629-5)
15	加藤滝川	膳揃食器「志野鉄絵梅はち草文六寸皿」		1950年頃	愛知県美術館(藤井達吉コレクションFT629-7)
16	瀬戸作陶会	膳揃食器			愛知県美術館(藤井達吉コレクションFT660)
17	河本千春	御深井印花文鉢		1931-35年頃	愛知県美術館(藤井達吉コレクションFT672)
18	加藤華仙	虎杖文花入		1932-46年頃	愛知県美術館(藤井達吉コレクションFT674)
19	藤井達吉・水野双鶴	風景文絵替銘々皿			愛知県美術館(藤井達吉コレクションFT675)
20	長江明治案	遺作展記念菓子皿			愛知県美術館(藤井達吉コレクションFT681)
21	亀井清市	連翹文水指		1950年頃	愛知県美術館(藤井達吉コレクションFT684)
22	水野双鶴	葉形銘々皿		1947-48年頃	愛知県美術館(藤井達吉コレクションFT685)
23	河本千春	染付唐草文皿		1931-35年頃	愛知県美術館(藤井達吉コレクションFT692)
24	栗木伎茶夫	染付皿		1937-38年	愛知県美術館(藤井達吉コレクションFT704)
25	亀井清市	鉄絵花文中皿		1950年頃	愛知県美術館(藤井達吉コレクションFT705)
26	加藤 績	竹絵鉢		1940年頃	愛知県美術館(藤井達吉コレクションFT715)
27	長江明治	指頭文壺		1935年頃	愛知県美術館(藤井達吉コレクションFT717)
28	瀬戸作陶会	四方皿			愛知県美術館(藤井達吉コレクションFT720-2)
29	加藤逸郎	黒釉花入		1931-44年頃	愛知県美術館(藤井達吉コレクションFT722)
30	商工省瀬戸試験所	伊賀平果物皿			愛知県美術館(藤井達吉コレクションFT724)
31	鈴木八郎	茄子文四方盆		1949-50年	愛知県美術館(藤井達吉コレクションFT726)
32	長江明治	色絵窯文大皿		1937-38年頃	愛知県美術館(藤井達吉コレクションFT735)
33	加藤華仙	砂絵中次		1935年頃	愛知県美術館(藤井達吉コレクションFT737)
34	長江明治	櫛目唐黍文果物皿		1935年頃	愛知県美術館(藤井達吉コレクションFT749)
35	栗木伎茶夫	落花文蓋物		1950年頃	愛知県美術館(藤井達吉コレクションFT773)
36	バーナード・リーチ	鉄絵花文鉢		20世紀	愛知県美術館(藤井達吉コレクションFT814)
37	バーナード・リーチ	葡萄文鉢		20世紀	愛知県美術館(藤井達吉コレクションFT815)

番号	作者	作品名	技法・材質	制作年	所蔵
38	栗木伎茶夫	呉洲絵水指		1947年頃	愛知県美術館(藤井達吉コレクションFT818)
39	藤井達吉絵	染付笹文重箱		1937-38年頃	愛知県美術館(藤井達吉コレクションFT984)
40	藤井達吉絵	色絵草花文四方皿			愛知県美術館(藤井達吉コレクションFT1053)
41	藤井達吉書・加藤華仙	和歌汲出茶碗		1935年頃	愛知県美術館(藤井達吉コレクションFT1060)
42	藤井達吉絵・加藤唐九郎	草花文花入		昭和時代初期	愛知県美術館(藤井達吉コレクションFT1075)
43	藤井達吉絵・宮脇誠逸	赤絵銀彩大皿		1937年頃	愛知県美術館(藤井達吉コレクションFT1087)
44	藤井達吉絵・加藤偉三	御深井イッチン絵八寸皿		1935年頃	愛知県美術館(藤井達吉コレクションFT1090)
45	藤井達吉絵・加藤偉三	御深井イッチン絵八寸皿		1935年頃	愛知県美術館(藤井達吉コレクションFT1092)
46	藤井達吉絵・加藤偉三	御深井イッチン絵八寸皿		1935年頃	愛知県美術館(藤井達吉コレクションFT1093)
47	藤井達吉	延齢草	銅・七宝	1920年代	愛知県美術館(藤井達吉コレクションFT1217)
48	藤井達吉	葡萄文		1919-35年	愛知県美術館(藤井達吉コレクションFT1218)
49	藤井達吉	山椿	銅・七宝	1920年代	愛知県美術館(藤井達吉コレクションFT1229)

## イ. 豊田市美術館

### 「コレクション：豊田市美術館+愛知県美術館」

会場：豊田市美術館展示室5  
 会期：2018年4月24日（火）～7月16日（月・祝）  
 主催：豊田市美術館、愛知県美術館  
 休館日：月曜日（但し祝祭日の場合は開館し、翌火曜日が休館）  
 出品点数：所蔵作品13点  
 入場者数：25,616人

## 関連事業：

### 2館学芸員によるギャラリートーク・エピソード2

日時：2018年6月3日（日）午後3時～4時  
 参加者45人

会場：豊田市美術館展示室5  
 講師：副田一穂（愛知県美術館学芸員）、鈴木俊晴（豊田市美術館学芸員）

## 出品リスト

番号	作者	作品名	技法・材質	制作年	寸法 (cm)	所蔵
1	藤田嗣治	青衣の少女	油彩、画布	1925年	55.0×38.0	愛知県美術館
2	ポール・デルヴォー	こだま(あるいは「街路の神秘」)	油彩、画布	1943年	105.0×128.0	愛知県美術館
3	マックス・エルンスト	ポーランドの騎士	油彩、画布	1954年	116.0×89.0	愛知県美術館
4	グスタフ・クリムト	人生は戦いなり(黄金の騎士)	油彩・テンペラ・金箔、画布	1903年	100.0×100.0	愛知県美術館
5	ジョアン・ミロ	絵画	油彩、画布	1925年	97.0×130.0	愛知県美術館
6	フェルナン・レジェ	緑の背景のコンポジション(葉のあるコンポジション)	油彩、画布	1931年	92.5×73.2	愛知県美術館
7	パブロ・ピカソ	青い肩かけの女	油彩、画布	1902年	60.3×52.4	愛知県美術館
8	エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー	グラスのある静物	油彩、画布	1912年	100.0×74.0	愛知県美術館
9	フランティシェク・クプカ	灰色と金色の展開	油彩、画布	1920-21年	60.0×81.0	愛知県美術館
10	サム・フランシス	消失に向かう地点の青	油彩、画布	1958年	182.8×238.7	愛知県美術館
11	パウル・クレー	女の館	油彩、厚紙	1921年	41.7×52.3	愛知県美術館
12	バルテュス	白馬の上の女性曲馬師	油彩、ボード	1941年(1945年加筆)	78.5×89.7	愛知県美術館
13	アンリ・マティス	待つ	油彩、画布	1921-22年	61.0×50.0	愛知県美術館

## ウ. 愛知県陶磁美術館での長期展示

2008年度以降、愛知県陶磁美術館常設展でサテライト展示と位置づけ長期展示を行っている。2018年度は3点を公開した。

入場者数：13,805人

「日本と世界のやきもの」内で展示。

番号	制作地・作家名	作品名	制作年
1	中国・越州窯	青磁天鶏壺 (木村定三コレクション M1236)	東晋時代 (4 - 5世紀)
2	ベトナム	青磁瓜形水注 (木村定三コレクション M1232)	14世紀
3	京都・長次郎	黒樂茶碗 銘「苔志水」(木村定三コレクション M820)	桃山時代 (16世紀)

## 2 企画展

### 企画展の入場者数（1992年度から2018年度・展覧会別）

展 覧 会 タ イ ト ル	会 期		日数(日)	入場者(人)	一日平均(人)*
フォーヴィスムと日本近代洋画	92/10/30	92/12/20	45	41,343	919
近代の日本画 — 西洋との出会いと対話	93/01/05	93/02/11	33	26,166	793
20世紀愛知の美術	93/02/19	93/03/21	27	11,585	429
パウル・クレアの芸術	93/04/02	93/05/23	45	103,239	2,294
小川芋銭展	93/06/04	93/07/04	27	26,106	967
現代の陶芸1950-1990展	93/07/16	93/08/22	33	13,153	399
安田鞆彦展	93/09/03	93/10/17	39	43,003	1,103
リール市美術館所蔵 — バロック・ロココの絵画	93/10/29	94/01/16	63	47,042	747
戸張孤雁と大正期の彫刻	94/01/25	94/03/06	36	7,996	222
色彩の宇宙 クブカ展	94/03/18	94/05/08	45	33,652	748
杉本健吉展	94/05/14	94/06/02	17	19,568	1,151
シカゴ美術館展 — 近代絵画の100年 —	94/06/10	94/07/24	38	89,204	2,347
レジェ展	94/08/05	94/09/11	33	22,793	691
聖なるかたち 後期ゴシックの木彫と板絵 — アーヘン市立ズエルモント＝ルードヴィヒ美術館所蔵	94/09/23	94/11/03	37	27,976	756
没後20年 香月泰男展	94/11/18	95/01/16	46	27,164	591
アンドリュー・ワイエス展 — アメリカの郷愁 心の風景を描く	95/02/03	95/04/02	51	120,177	2,356
ウィーンのジャポニスム	95/04/11	95/05/14	30	27,803	927
フランツ・ゲルチュ	95/05/26	95/07/02	33	22,392	679
還流 — 日韓現代美術展	95/07/14	95/09/03	45	25,072	557
ウィンザー城王立図書館所蔵 レオナルド・ダ・ヴィンチ人体解剖図	95/09/15	95/10/15	27	68,439	2,535
表現主義彫刻	95/10/27	96/01/15	64	12,428	194
リチャード・マイヤーとフランク・ステラ — 建築と絵画の接点	96/02/02	96/04/07	57	16,599	291
大英博物館所蔵イタリア素描展	96/04/19	96/05/26	33	30,973	939
抽象表現主義展 — アメリカ黄金期の絵画	96/07/26	96/09/16	46	19,005	413
富岡鉄斎展 — 理想郷を語る	96/09/27	96/11/10	39	25,680	658
北川民次展 — 愛と人間をえがく	96/11/22	97/01/26	51	28,789	564
カンディンスキーとミュンター 愛と創造の日々 1901-1917	97/02/08	97/03/16	32	22,891	715
没後50年 ボナール展	97/03/28	97/05/18	45	54,094	1,202
理智と幻想のシュルレアリスト 北脇昇展	97/05/30	97/07/13	39	15,951	409
モダンデザインの父 ウィリアム・モリス展	97/07/25	97/08/31	33	54,835	1,662
20世紀美術の冒険 — セザンヌ、ファン・ゴッホから現在まで — アムステルダム市立美術館コレクション展	97/09/12	97/11/03	46	31,750	690
イタリア美術 1945-1995 — 見えるものと見えないもの	97/11/14	98/01/15	48	16,739	349
近代美術の100年 — 愛知県美術館コレクションの精華 —	98/01/30	98/03/08	33	17,985	545
川合玉堂展 — めぐりゆく季節 —	98/03/20	98/05/05	41	70,936	1,730
久野真・庄司達展 — 鉄の絵画と布の彫刻 —	98/05/15	98/06/07	21	10,236	487
ナイアガラの虹を越えて… オルブライト＝ノックス美術館展 名画への誘い	98/06/19	98/08/02	39	66,342	1,701
生誕100年記念 佐伯祐三展	98/08/16	98/09/27	37	39,972	1,080
アルトゥング展	98/10/09	98/12/13	57	18,845	331
没後50年 松本竣介展	99/01/08	99/02/21	39	24,551	630
プッサンとラファエッロ 借用と創造の秘密	99/03/05	99/04/11	33	13,387	406

展 覧 会 タ イ ト ル	会 期		日数(日)	入場者(人)	一日平均(人)*
ファウスト・メロッティ展	99/04/23	99/06/13	45	13,614	303
前田寛治の芸術 ― 詩情と造形 ―	99/07/02	99/08/22	45	14,851	330
危機の時代と絵画 1930-1945	98/09/03	98/10/17	39	8,379	215
生誕100年 関根正二展	99/10/29	99/12/12	39	22,719	583
セザンヌ展	00/01/05	00/03/12	59	171,060	2,899
レンブラント・フェルメールとその時代 アムステルダム国立美術館所蔵 17世紀オランダ美術展	00/04/07	00/06/18	63	104,226	1,654
田中恭吉展	00/07/15	00/08/27	38	22,788	600
加納光於「骨ノ鏡」あるいは色彩のミラージュ	00/09/15	00/11/05	45	11,606	258
アメリカン・ドリームの世紀展	00/11/23	01/01/28	52	25,390	488
岸田劉生展	01/02/09	01/04/01	45	38,752	861
メルツバッハー・コレクション展	01/04/13	01/05/27	39	47,245	1,211
ロダンと日本	01/06/22	01/08/19	51	57,339	1,124
バックミンスター・フラワー展	01/09/14	01/11/04	45	10,962	244
世界遺産 ボンベイ展	02/02/08	02/04/07	51	101,367	1,988
開館10周年記念 大英博物館所蔵フランス素描展	02/04/26	02/06/30	57	25,638	450
開館10周年記念 韓国の色と光	02/07/26	02/09/23	52	10,652	205
開館10周年記念 ミロ展	02/10/04	02/12/01	51	83,084	1,629
開館10周年記念 中西夏之展 広さと近さ ― 絵の姿形	02/12/20	03/02/23	51	14,525	285
菱田春草展	03/04/11	03/05/18	33	53,578	1,624
戸谷成雄 森の襲の行方	03/06/06	03/07/27	45	12,934	287
レオン・スピリアルト展	03/08/05	03/09/23	43	15,674	365
空海と高野山	03/10/10	03/11/24	40	109,612	2,740
中村彝の全貌	04/01/06	04/02/29	48	20,004	417
ベン・ニコルソン	04/04/09	04/05/23	39	10,855	278
野見山暁治展	04/06/04	04/07/19	40	7,310	183
国吉康雄展	04/08/06	04/09/26	45	24,702	549
木村定三コレクションによる熊谷守一展	04/10/08	04/12/05	51	17,555	344
自然をめぐる千年の旅 ― 山水から風景へ ―	05/03/11	05/05/08	51	63,052	1,236
アジアの潜在力 ― 海と島が育んだ美術 ―	05/05/24	05/07/10	42	8,109	193
ゴッホ美術館、クレラー=ミュラー美術館所蔵作品によるゴッホ展 ― 孤高の画家の原風景 ―	05/07/26	05/09/25	54	423,745	7,847
生誕100年記念 吉原治良展	05/12/16	06/02/26	57	12,651	222
江戸絵画 ― 小世界を愉しむ ― 木村定三コレクションの近世絵画	06/03/10	06/05/07	63	14,260	226
愛知曼陀羅 ― 東松照明の原風景 ―	06/06/02	06/07/23	45	18,181	404
愉しき家	06/08/04	06/10/01	51	13,831	271
ベルシャ文明展	06/10/13	06/12/10	51	62,194	1,219
ルソーの見た夢/ルソーに見る夢	06/12/20	07/02/12	42	35,389	843
プライスコレクション 若冲と江戸絵画展	07/04/13	07/06/10	52	92,852	1,786
愛知・岐阜・三重 三県立美術館共同企画 20世紀美術の森	07/06/29	07/08/26	51	13,964	274
サイクルとりサイクル	07/09/07	07/11/04	51	11,595	227
ロートレック展	07/11/13	08/01/14	49	50,042	1,021
杉本健吉展	08/04/04	08/06/01	51	16,721	328
誌上のユートピア ― 近代日本の絵画と美術雑誌 1889-1915 ―	08/06/14	08/07/27	38	9,545	251
ライオネル・ファイニンガー	08/10/17	08/12/23	58	12,693	219

展 覧 会 タ イ ト ル	会 期		日数(日)	入場者(人)	一日平均(人)*
アンドリュー・ワイエス 創造への道程	09/01/04	09/03/08	55	62,245	1,132
アヴァンギャルド・チャイナ〈中国当代美術〉二十年	09/04/03	09/05/24	45	11,051	246
生活と芸術 アーツ&クラフツ展 ウィリアム・モリスから民芸まで	09/06/12	09/08/16	57	35,338	620
あいちトリエンナーレ2010 プレイベント 放課後のほらっぱ 櫃田伸也とその教え子たち	09/08/28	09/10/25	51	13,702	269
日本の自画像 写真が描く戦後 1945-1964	09/11/06	09/12/13	33	10,580	321
大ローマ展	10/01/06	10/03/22	65	128,496	1,977
小川芋銭と珊瑚会の画家たち	10/04/09	10/05/23	39	8,607	221
あいちトリエンナーレ2010	10/08/21	10/10/31	**65	***147,821	2,274
レンバツハハウス美術館所蔵 カンディンスキーと青騎士	11/02/15	11/04/17	54	22,647	419
麻生三郎展	11/04/29	11/06/12	39	9,532	244
棟方志功 祈りと旅	11/07/09	11/09/04	50	51,966	1,039
島田章三展	11/09/16	11/10/30	39	10,881	279
生誕100年 ジャクソン・ポロック展	11/11/11	12/01/22	58	42,531	733
魔術／美術 — 幻視の技術と内なる異界 —	12/04/13	12/06/24	63	26,637	423
マックス・エルンスト — フィギュア×スケープ	12/07/13	12/09/09	51	18,148	356
生誕150年記念 クリムト黄金の騎士をめぐる物語	12/12/21	13/02/11	41	82,214	2,005
円山応挙展	13/03/01	13/04/14	39	73,022	1,872
プーシキン美術館展 フランス絵画の300年	13/04/26	13/06/23	52	123,915	2,383
あいちトレエンナーレ2013	13/08/10	13/10/27	**72	***114,869	1,595
印象派を超えて 点描の画家たち ゴッホ、スーラからモンドリアンまで	14/02/25	14/04/06	39	78,666	2,017
シャガール展	14/04/17	14/06/08	47	82,328	1,752
これからの写真	14/08/01	14/09/28	51	16,440	322
デュフィ展	14/10/09	14/12/07	52	39,068	751
ロイヤル・アカデミー展	15/02/03	15/04/05	54	41,919	776
『月映』展	15/04/17	15/05/31	39	9,561	245
生誕110年 片岡球子展	15/06/12	15/07/26	39	37,405	959
芸術植物園	15/08/07	15/10/04	51	17,900	351
ピカソ、天才の秘密	16/01/03	16/03/21	69	123,386	1,788
黄金伝説展	16/04/01	16/05/29	51	38,185	749
あいちトリエンナーレ2016	16/08/11	16/10/23	**68	***75,575	1,111
ゴッホとゴーギャン展	17/01/03	17/03/20	67	225,041	3,359
フィンランド・デザイン展	17/04/07	17/05/28	45	40,595	902
大エルミタージュ美術館展	17/07/01	17/09/18	70	146,016	2,086
長沢芦雪展	17/10/06	17/11/19	39	74,849	1,919
累 計			5,394	5,352,247	992

\* 小数点以下を四捨五入  
\*\* 愛知県美術館の開館日数  
\*\*\* 愛知県美術館の入場者数

## 企画展の開催状況（2018（平成30）年度）

2018（平成30）年度は改修工事に伴う休館のため開催しなかったものの、リニューアル・オープン後の企画展準備のために調査研究を進めた。

### 3 映像事業

1910～20年代に興ったアヴァンギャルド映画を源流とする、映像表現の可能性を拡張するような実験的な動向に着目し、上映会の開催やオリジナル映像作品制作などの事業を行った。

#### 名古屋市美術館常設展 郷土の美術 「名古屋のパフォーマンス—追悼岩田信市と岸本清子」 関連企画 映像上映会

名古屋市美術館での展示に合わせ、当館が所蔵する岩田信市が制作した映像作品や、岸本清子が出演する出光真子のビデオ・アート作品等を上映した。

日時：2018年6月23日（土）、24日（日）午後2時～

会場：名古屋市美術館 2F 講堂

入場者：23日（土）82人、24日（日）55人

\*岩田作品『ウォーキングマン』（1969年）、『大須パラダイス』（1977～1979年）は23日に上映。

上映後、両日とも両館学芸員が講演を行った。

共催：名古屋市美術館

担当：越後谷卓司（愛知県美術館主任学芸員）

笠木日南子（名古屋市美術館学芸員）

### 第23回アートフィルム・フェスティバル

特集「映画は如何にパフォーマンスを撮るか」は、演技する人間の生気が映像の記録では失われてしまうという問題に、映像作品がどのように対処してきたのかを、ジョナス・メカス『営倉』（1964年）、吉田喜重『愛知の民俗芸能』2部作（1992、93年）等の作品を通し検証した。最終日〈表現者・山口小夜子の軌跡〉では松本貴子『氷の花火 山口小夜子』（2015年）の上映とともに、愛知県文化振興事業団との共催で、山口と親交のあった黒田育世（BATK主宰、振付家、ダンサー）の講演も行った。また〈愛知芸術文化センター・愛知県美術館オリジナル映像作品最新第27作初公開〉として、小森はるか『空に聞く』（2018年）を初公開するとともに、小森によるアーティストトークも行った。

会期：2018年10月26日（金）、30日（火）～11月4日（日）

\*7日間開催

会場：アートスペースA（愛知芸術文化センター12階）

入場者：691人（延べ）

担当：越後谷卓司（愛知県美術館主任学芸員）



アートフィルム・フェスティバルトーク（小森はるか） 11月3日



アートフィルム・フェスティバル講演（左：黒田育世） 11月4日

## 2018年度愛知県芸術劇場普及啓発事業

現代音楽リレーレクチャー2018-2019 第3回

音から作る映画『サロメの娘／アークスモニウム』について

【第1部】映画『ホッテントットエプロン-スケッチ』上映＋  
トーク（共催：愛知県文化振興事業団）

3月9日（土）、10日（日）に愛知県芸術劇場小ホールで立体音響装置「アークスモニウム」（音楽・演奏：檜垣智也）と多層プロジェクション（演出・映像：七里圭）による映画『サロメの娘／アークスモニウム』のパフォーマンス上映が行われるのに先立ち、愛知県美術館が所蔵する七里圭『ホッテントットエプロン-スケッチ』（2007年、愛知芸術文化センター・オリジナル映像作品）上映と、七里監督と担当学芸員・越後谷卓司の対談形式によるトークを行った。

日 時：2019年2月3日（日）午後1時30分～午後3時30分

会 場：アートスペースA（愛知芸術文化センター12階）

入場者：25人



写真提供：愛知県芸術劇場

## 愛知芸術文化センター・愛知県美術館オリジナル映像作品の制作

本事業は“身体”を統一テーマに設定し、様々なジャンルの作家を登用して、その時代ごとに映像表現の先端的な状況を反映させてきた。平成30年度は、小田香を担当作家に選出し、シリーズ通算第28作『セノーテ』（2019年）の制作を行った。

メキシコ、ユカタン半島北部に点在する洞窟内の泉・セノーテは、マヤ文明の時代、雨乞いの儀式のため生け贄が捧げられた場所であり、現在も近辺にマヤをルーツとする人々が暮らしている。小田はダイビングを学び自らセノーテを水中撮影すると共に、この地に住む人々にも取材し、集団的記憶や原風景の映像化を試みた。  
担 当：越後谷卓司（愛知県美術館主任学芸員）



小田香『セノーテ』（2019年）

## 4 教育普及

### 教育普及事業の実施状況（2018（平成30）年度）

美術館では、社会の多様なニーズに応えるため、教育普及事業の充実に努めてきた。改修工事に伴う休館のため、愛知県図書館との共同企画による連続講座を実施した。また、教育現場との連携では、「鑑賞学習ワーキンググループ（研究会）」を、県内外の美術館で開催した。学校アウトリーチ事業として、県内盲学校にアーティストや研究者を派遣する「出前授業」で、鑑賞と造形プログラムを実施した。友の会との連携では、友の会サポートグループによる支援を受けた。

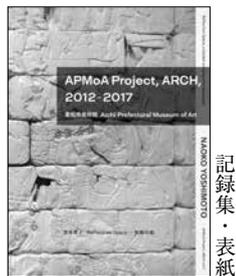
### 出版・発行

#### 企画展に関するもの

改修工事に伴う休館のため、作成しなかった。

#### APMoA Project, ARCHに関するもの

APMoA Project, ARCH 2012-2017 記録集  
B 5 判変型112頁



記録集・表紙

#### コレクション展に関するもの

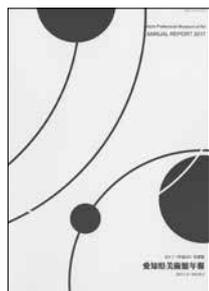
改修工事に伴う休館のため、作成しなかった。

#### ○研究紀要・年報

愛知県美術館研究紀要第25号 B 5 判63頁  
愛知県美術館年報第26号 A 4 判56頁



研究紀要・表紙



年報・表紙

#### 木村定三コレクションに関するもの

##### ○研究紀要

愛知県美術館研究紀要第25号  
木村定三コレクション編  
B 5 判105頁



研究紀要・表紙

#### 講演会・シンポジウム・展示説明会・関連イベント等企画展に関するもの

改修工事に伴う休館のため、実施しなかった。

#### コレクション展に関するもの

改修工事に伴う休館のため、実施しなかった。

#### サテライト展示に関するもの

##### ○「コレクション：豊田市美術館+愛知県美術館」展 トークイベント

日 時：2018年6月3日（日）午後3時～4時  
会 場：豊田市美術館 展示室5  
講 師：副田一穂（愛知県美術館学芸員）  
鈴木俊晴（豊田市美術館学芸員）

演 題：「2館学芸員によるギャラリートーク・エピソード2」  
参加者：45人

#### 上映会に関するもの

##### ○名古屋市美術館常設展 郷土の美術「名古屋のパフォーマンス—追悼岩田信市と岸本清子」関連企画 上映会と講演

共催：名古屋市美術館

日 時：2018年6月23日（土）、24日（日）午後2時～4時  
会 場：名古屋市美術館2F 講堂  
内 容：当館コレクションの岩田信市映像作品の上映後、両館学芸員による講演  
入場者：23日（土）82人、24日（日）55人  
\* 岩田作品は23日に上映

##### ○当館コレクションの上映とトーク 共催：愛知県文化振興事業団

日 時：2019年2月3日（日）午後1時30分～3時30分  
会 場：アートスペースA（愛知芸術文化センター12階）  
講 師：七里圭（映画監督）、越後谷卓司（愛知県美術館主任学芸員）  
内 容：【第一部】映画 七里圭『ホッテントットエプロン スケッチ』上映+対談  
演 題：「音から作る映画『サロメの娘／アコースモニウム』について」  
入場者：25人

## ○アートフィルム・フェスティバルでの講演とアーティスト・トーク

### (1) 講演

日時：2018年11月4日（日）午後6時15分～7時15分  
講師：黒田育世（BATIK主宰、振付家、ダンサー）、松本貴子（映画監督）、越後谷卓司（愛知県美術館主任学芸員）  
内容：松本貴子監督『氷の花火 山口小夜子』上映終了後、山口と親交のあった黒田、監督の松本、担当学芸員の越後谷による鼎談形式で、ファッション・モデルに留まらない表現者としての山口の姿を浮かび上がらせた。  
入場者：56名

### (2) アーティスト・トーク

日時：2018年11月3日（土）午後3時40分～4時40分  
講師：小森はるか（映画監督）、越後谷卓司（主任学芸員）  
内容：オリジナル映像作品『空に聞く』の上映後、制作作家である小森監督が、担当学芸員の越後谷との対談形式で、本作完成までの経緯や制作の背景について語った。  
入場者：57名

## 各種教育プログラム

### 教員研修に関するもの

#### ○鑑賞学習交流会

改修工事に伴う休館のため、実施しなかった。

#### ○鑑賞学習ワーキンググループ

改修工事に伴う休館のため、近隣美術館で教員対象に鑑賞学習の研修を行った。

##### (1) 2018年6月16日（土）正午～午後2時

会場：名古屋市美術館  
常設展ギャラリートーク、アンゼラム・キーファー《シベリアの王女》、フランク・ステラ《説教》、中学校教員2名による実施 参加者14人

担当：藤島美菜（愛知県美術館主任学芸員）

##### (2) 2018年8月25日（土）午後1時30分～4時

会場：はるひ美術館  
企画展元永定正展ギャラリートーク、元永定正《作品》、高校教員1名と高校生2名による実施 参加者9人

担当：藤島美菜（愛知県美術館主任学芸員）

##### (3) 2018年11月17日（土）午後1時～2時10分

会場：名古屋市美術館  
野外彫刻の鑑賞とトーク、アントニー・ゴームリー《接近V》、青木野枝《無題》ほか 参加者9人

担当：藤島美菜（愛知県美術館主任学芸員）

##### (4) 2019年1月26日（土）午前11時～午後3時

会場：三重県総合博物館、三重県立美術館

脊椎動物の骨格ワークショップ、教育活動レクチャー、資料実見 参加者7人

担当：中村千恵（三重県総合博物館学芸員）、鈴木麻里子（三重県立美術館学芸員）、藤島美菜（愛知県美術館主任学芸員）

##### (5) 2019年3月16日（土）午後1時30分～4時

会場：アートスペースE・F（愛知芸術文化センター12階）  
本年度活動の振り返り、次年度活動計画ほか 参加者6人

担当：藤島美菜（愛知県美術館主任学芸員）

## 一般対象に関するもの

### ○出前講座（県政お届け講座）

実施しなかった。

### ○講座

愛知県美術館・愛知県図書館 共同企画

連続講座「美術と文学」

時間：各回午後6時～7時

会場：愛知県図書館1階エントランス（Yotteko）

講師・演題：

第1回 6月22日（金）

「レーピンと19世紀ロシアの作家たち」古田浩俊（愛知県美術館副館長）

第2回 8月24日（金）

「ムンクとイブセンの戯曲『幽霊』」深山孝彰（愛知県美術館美術課長）

第3回 10月26日（金）

「マルセル・デュシャンの図書館」南雄介（愛知県美術館館長）

第4回 12月21日（金）

「辻邦生とその周辺」拝戸雅彦（愛知県美術館企画業務課長）

## 幼児、児童、生徒対象に関するもの

改修工事に伴う休館のため、実施しなかった。

## 視覚に障がいのある人を対象としたもの

### ○盲学校アウトリーチ事業「出前授業 アーティスト・イン・スクール」

(1) アーティストによる鑑賞と造形ワークショップ

「心の布—センス・オブ・ファイバー」

講師：眞田岳彦（女子美術大学教授・衣服造形家）

日時・場所・対象・内容：

A：交流プログラム

2018年5月30日(水) 午前10時45分～11時15分  
岡崎盲学校 中学部12人  
午後2時20分～3時10分  
名古屋盲学校 小学部16人  
高等部7人  
計35人

内容：綿、羊毛、麻、絹の4種の各素材と布地を触察し、  
違いを感じ取る。

#### B：造形プログラム

2018年11月15日(木) 午前8時50分～12時  
名古屋盲学校 小学部16人  
午前10時45分～11時35分  
名古屋盲学校 中学部10人  
午後1時20分～4時10分  
名古屋盲学校 高等部23人

2018年11月16日(金) 午前10時55分～12時45分  
岡崎盲学校 中学部14人  
計63人

内容：毛皮、天然素材による生地、合成素材による生地、  
リサイクル生地などの触察体験と天然素材の羊毛  
からフェルトを制作する造形体験。



担当：藤島美菜(愛知県美術館主任学芸員)

#### (2) 研究者による鑑賞と造形ワークショップ

講師：広瀬浩二郎(国立民族学博物館准教授)

日時・場所・対象・内容：

2018年9月21日(金) 午前11時45分～12時35分  
名古屋盲学校 中学部10人  
午後1時20分～3時05分  
名古屋盲学校 高等部23人

2018年10月4日(木) 午前11時55分～12時45分  
岡崎盲学校 中学部14人  
計47人

内容：身体運動体験や、様々な民族学的史料と講師が制作した手の造作物を触察。視覚障害者である講師から手にまつわる体験談等のレクチャーを受け、生徒たちが自身の体験を生かした「手」を造形した。

担当：藤島美菜(愛知県美術館主任学芸員)



### 各種団体による鑑賞への対応

改修工事に伴う休館のため、実施しなかった。

### 博物館実習生の受け入れ指導

改修工事に伴う休館のため、受け入れをしなかった。

### 学生アシスタントの受け入れ指導

改修工事に伴う休館のため、受け入れをしなかった

### 美術館友の会との協力

#### ○友の会会員のための特別鑑賞会

改修工事に伴う休館のため、実施しなかった。

#### ○講演、講座

##### 友の会講座

(1) 2018年10月12日(金) 午後1時30分～3時 参加者28人  
会場：アートスペースE・F(愛知芸術文化センター12階)  
講師：塩津青夏(トリエンナーレ推進室主任)  
演題：「あいちトリエンナーレ2019：準備の舞台裏」

(2) 2018年11月18日(日) 午前10時30分～午後0時45分  
参加者28人  
会場：アートスペースE・F(愛知芸術文化センター12階)  
講師：四辻秀紀(徳川美術館学芸部長)  
演題：「書之美を楽しむ」

#### ○会報『空中回廊』の発行

2018年9月 mini vol.2：「閉館中の美術館(改修工事の状況など)」

2019年3月 46号：「アイチアートクロニクル1919-2019」展紹介、友の会事業紹介

○所蔵品管理サポート

保存関係 第2・第4水曜日活動 年間22回  
藤井達吉読み下し 第1・第3水曜日活動 年間22回

○美術館モニターサポート

改修工事に伴う休館のため、実施しなかった。



46号



mini vol. 2

## 所蔵作品に関すること

### ○越後谷卓司

- ・(講演)「作品解説 岩田信市『ウォーキングマン』『大須パラダイス』』『名古屋市美術館常設展 郷土の美術「名古屋のパフォーマンス - 追悼岩田信市と岸本清子」関連企画 映像上映会』名古屋市美術館講堂、2018年6月23日(共催:名古屋市美術館)
- ・(講演)「愛知芸術文化センター・愛知県美術館オリジナル映像作品 エクスペリメンタル傑作選 トーク」『イメージフォーラム・フェスティバル2018』(共催:イメージフォーラム)愛知芸術文化センターアートスペースA、2018年9月26日
- ・(講演)七里圭、越後谷卓司「映画『ホットtentottエプロンスケッチ』トーク」(共催:愛知県文化振興事業団)愛知芸術文化センターアートスペースA、2019年2月3日

### ○平瀬礼太

- ・(編集)「藤井達吉コレクションFT438《絵巻「真鶴の庭の梅」》読み下し」『愛知県美術館研究紀要』第25号、2019年3月

### ○石崎尚

- ・「ゼロ次元前史」『愛知県美術館研究紀要』第25号、2019年3月

### ○中村史子

- ・「写真作品における原爆の表象について——新井卓『EXPOSED IN A HUNDRED SUNS / 百の太陽に灼かれて』シリーズを中心に」『愛知県美術館研究紀要』第25号、2019年3月

### ○副田一穂

- ・(トークイベント)久保田有寿、副田一穂、東海林洋「コレクション展を面白く魅せるひみつ」『キュレーターズ・トーク マグ画廊と20世紀の画家たち——美術雑誌『デアエール・ル・ミロワール』を中心に』国立西洋美術館、2018年4月27日
- ・(トークイベント)副田一穂、鈴木俊晴「2館学芸員によるギャラリートーク・エピソード2」『コレクション:豊田市美術館+愛知県美術館』、豊田市美術館、2018年6月3日
- ・(講演)「戦時下の道標——フィリピン時代の阿部展也」『阿部展也——あくなき越境者』展講演会』埼玉県立近代美術館、2018年9月16日

### ○黒田和士

- ・「パウル・クレー《回心した女の墮落》」『空中回廊』第46号、2019年2月

### ○中野悠

- ・「コレクション紹介《高麗鉄地金銀象嵌鏡架》」『博物館研究』Vol.54、No.1、2018年12月
- ・(編集)「藤井達吉コレクションFT438《絵巻「真鶴の庭の梅」》読み下し」『愛知県美術館研究紀要』第25号、2019年3月

### ○由良濯

- ・(編集)「木村定三コレクション 耳輪・環頭目録」『愛知県美術館研究紀要 木村定三コレクション編』第25号、2019年3月

## 展覧会等に関すること

### ○坪戸雅彦

- ・「8章:現代美術の名古屋」「9章:美術館の内と外——オルタナティブからトリエンナーレへ」『アイチアートクロニクル1919-2019』展図録、愛知県美術館、2019年3月

### ○平瀬礼太

- ・「1章:博覧会・博物館——愛知洋画の始まり 1871~」「4章:非常時・愛知——1930年代から40年代にかけて」『アイチアートクロニクル1919-2019』展図録、愛知県美術館、2019年3月

### ○石崎尚

- ・「コラムVI:伊勢湾台風と美術」「コラムVII:桑原幹根の文化行政」「7章:美術家たちの集団行動」「コラムIX:ゼロ次元と愛知のハブニング」『アイチアートクロニクル1919-2019』展図録、愛知県美術館、2019年3月

### ○中村史子

- ・(編集)『APMoA Project, ARCH 2012-2017記録集』愛知県美術館、2019年3月
- ・「ARCHがもたらしたものについて」『APMoA Project, ARCH 2012-2017記録集』愛知県美術館、2019年3月
- ・「コラムII:愛友写真倶楽部——愛知写真史の始まり」「コラムXII:メディアアートシティ、名古屋」「コラムXIV:アート・プロジェクトは歴史化されるか——名古屋港を舞台としたアート・プロジェクト30年」『アイチアートクロニクル1919-2019』展図録、愛知県美術館、2019年3月

### ○副田一穂

- ・「愛知県美術館と地域の美術——次のアイチアートクロニクルのために」「コラムI:愛知から欧州へ——大正期のパリ留学」「3章:シュルレアリスムの名古屋」「5章:日本画と前衛」「コラムV:動物園と美術」「コラムVIII:地域美術史研究

を掘り起こす』『アイチアートクロニクル1919-2019』展図録、愛知県美術館、2019年3月

○黒田和士

- ・「2章：愛美社とサンサシオン——触知的リアリズムと視覚的アカデミズム」『アイチアートクロニクル1919-2019』展図録、愛知県美術館、2019年3月

○由良渥

- ・「コラムIV：文化財を守り伝えること——戦時下の文化財疎開」『アイチアートクロニクル1919-2019』展図録、愛知県美術館、2019年3月

## 教育普及に関すること

○藤島美菜

- ・（企画）『アウトリーチ事業 盲学校出前授業』岡崎盲学校、名古屋盲学校、2018年5月・9月・10月・11月

## 作品の保存等に関すること

○乗名彩香

- ・（講演）「愛知県美術館のIPMについて」『公開承認施設会議』文部科学省第2講堂、2018年6月20日
- ・（講演）「愛知県美術館の改修について」『2018年度愛知県博物館協会博物館職員等研修会』2018年12月18日

## 映像事業に関すること

○越後谷卓司

- ・（プログラム解説）「映像とパフォーマンス、その深淵にむけて」『第23回アートフィルム・フェスティバル』2018年10月26日
- ・（講演）小森はるか、越後谷卓司「小森はるか『空に聞く』初公開トーク」愛知芸術文化センターアートスペースA、2018年11月3日
- ・（講演）黒田育代、松本育子、越後谷卓司「松本育子『氷の花火 山口小夜子』トーク」（共催：愛知県文化振興事業団）愛知芸術文化センターアートスペースA、2018年11月4日

## その他

○南雄介

- ・『『モネ それからの100年』展覧会を見て⑤』『中日新聞』2018年6月13日朝刊
- ・（講演）「美術館で働くということ」愛知淑徳大学司書・学芸員課程委員会開催講演会、愛知淑徳大学、2018年10月8日
- ・（講演）「マルセル・デュシャンの図書館」『愛知県美術館×愛知県図書館 共同企画 愛知県美術館学芸員による連続講座 美術と文学』第3回 愛知県図書館、2018年10月26日
- ・「絵画の楽しみ—日本の近代絵画を見る」および「作家・作品解説」『堀美術館コレクション 名画の楽しみ』（展覧会パンフレット）2018年10月
- ・「堀美術館コレクション 名画の楽しみ」展ギャラリートーク、東海東京証券オルクドール、2018年11月7日
- ・日仏美術学会「マルセル・デュシャンと日本美術」展特別見学会ギャラリートーク、東京国立博物館平成館、2018年11月13日
- ・『『マルセル・デュシャン アフタヌーン・インタヴューズ』書評 カジュアルな奇才 入門書に』『北海道新聞』2018年12月16日朝刊
- ・（講演）「現代日本美術の国際性」愛知大学、2018年12月19日
- ・「『デュシャン展』に見た可能性」（リレーエッセイ67）、『美連協ニュース』No.141（2019年2月号）
- ・（トーク）クロストーク「これからの美術館は何をコレクションするのか？」熊田司、外館和子、丹羽晴美、守安収とのトーク）、鳥取県立博物館、2019年2月23日
- ・（対談）「辰野登恵子展」記念対談（柴田敏雄との対談）、名古屋市美術館、2019年2月24日
- ・「『Windshield Time ——わたしのフロントガラスから』を見て」『あいちトリエンナーレ地域展開事業 Windshield Time ——わたしのフロントガラスから 現代美術 in 豊田』（展覧会カタログ・記録集）、2019年3月
- ・2018年度文化庁芸術選奨選考委員（美術部門）

○古田浩俊

- ・（講演）「レーピンと19世紀ロシアの作家たち」『愛知県美術館×愛知県図書館 共同企画 愛知県美術館学芸員による連続講座 美術と文学』第1回 愛知県図書館、2018年6月22日

○坪戸雅彦

- ・「光の鼓動」『平川祐樹展』図録、アンドンギャラリー、2018年6月
- ・「襷と雲——古川あいか」『古川あいか展』図録、2018年8月
- ・「表現の現場から」『中日新聞』2018年8-10月（連載・全11回）
- ・（企画協力）「不透明なメディウムが透明になる時—新世代のアーティストたち」展、電気文化会館、2018年7月24日-8

月5日

- ・(特別講師)岡崎市主催「展覧会をつくろう——キュレーション実践講座」岡崎シビコ、2018年6月23日・7月29日
- ・(講演)「美術展のマネジメント」南山大学経営学部、2018年10月1日
- ・(講演)「外部から美術館に求められていること」椋山女学園大学、2018年10月23日
- ・(講演)「辻邦生とその周辺」『愛知県美術館×愛知県図書館 共同企画 愛知県美術館学芸員による連続講座 美術と文学』第4回 愛知県図書館、2018年12月21日
- ・(講演)「第一回 表現に古典(過去)をどう利用してきたか」愛知県立芸術大学、2019年1月8日
- ・(講演)「第二回 アーティストとして生き残るためにどんなことが言われているか」愛知県立芸術大学、2019年1月29日
- ・(進行)加藤巧、鈴木雅明、鈴木悠哉、山本雄基「『Grafting 接ぎ木』トークイベント」Art Space & Cafe Barrack + タネリスタジオ1F(瀬戸)、2019年2月9日
- ・(進行)「絵画の何か part3 ラウンドテーブル」『トークシリーズ「絵画の夕べ」』Minatomachi POTLUCK BUILDING 1F:Lounge Space(名古屋市港区)、2019年3月9日

#### ○深山孝彰

- ・(講演)「愛知県美術館における資料(作品)の収集・保存および公開について」『2018年度愛知図書館協会総会』愛知県図書館、2018年5月16日
- ・(講演)「ムンクとイブセンの戯曲『幽霊』」『愛知県美術館×愛知県図書館 共同企画 愛知県美術館学芸員による連続講座 美術と文学』第2回 愛知県図書館、2018年8月24日

#### ○越後谷卓司

- ・「今、ポスターとは何かを考える」『加藤由朗展』チラシ、極小美術館、2018年7月
- ・(シンポジウム)阿部卓也、伊奈新佑、越後谷卓司、齋藤正和、須藤信、前田真二郎、宮下十有、伏木啓「『ISMIE2018代表作品プログラム+名古屋特別プログラム』公開トーク」『ムービング・イメージ・フェスティバル(MIF)2018』(共催:ムービング・イメージ・フェスティバル(MIF)2018)愛知芸術文化センターアートスペースA、2018年10月28日
- ・(シンポジウム)韓成南、西山修平、越後谷卓司、飯村隆彦「名古屋市文化振興事業団 ファン・デ・ナゴヤ美術展2019『予見する人工物』トーク・セッション」名古屋市青少年文化センター 7th Café、2019年1月14日

#### ○藤島美菜

- ・(講演)「ひと・モノが拓く一ふれる世界の広がり 盲学校との連携を中心に」

『明治大学博物館・南山大学人類学博物館連携事業 シンポジウム「博物館・美術館における参加・体験型プログラム」』南山大学、2018年11月26日

#### ○平瀬礼太

- ・(講演)「銅像受難の近現代」『兵庫県高等学校教育研究会社会(地理歴史・公民)部会 総会・春季研究大会』2018年5月17日
- ・「戦争に似合う彫刻」『彫刻 SCULPTURE 1』トポフィル、2018年6月
- ・(講演)「銅像はだるまさんなのか?」『志賀直哉旧居特別講座』2018年9月17日
- ・「天皇をかたどる—貴顕の像と明治の終焉」『日本藝術の創跡23(2018年度版) 明治150年 文明開化と近代日本藝術の繚乱』クオリアート、2018年11月
- ・(書評)「谷田博幸著『国家はいかに「楠木正成」を作ったのか 非常時日本の楠公崇拜』」『日本経済新聞』2019年3月30日
- ・「美術と終戦 戦争は終わったようで・・・」『りずむ』第8号、2019年3月

#### ○森美樹

- ・(講演)「アンリ・マチス——二つの窓をめぐる物語——」名古屋外国語大学創立30周年記念事業、名古屋外国語大学外国語学部フランス語学科、2018年6月12日

#### ○中村史子

- ・(対談)「芸術は象徴的交換であると同時に…(仮)」『きりとりめでるとトーク』パルル、2018年6月28日
- ・「焦点の合わなさ、あるいは」アートラボあいち『素時soji』展評、2018年7月13日公開(<http://aichitriennale.jp/ala/project/2018/c-002338.html>)
- ・(講演)「制作におけるメソッド——版画性から思考する表象のオルタナティブ」秋庭史典、大崎のぶゆきと講演、資料館資料室(愛知県立芸術大学)、2018年9月15日
- ・(企画協力)「野分、崇高、相模原」(スーパーオープンスタジオ関連企画)アートラボはしもとほか、2018年10月13日~11月4日
- ・(講演)「画家の写真展」、soda(京都)、2018年11月10日
- ・(鼎談)「長島有里枝×高橋朗×中村史子」ちひろ美術館・東京、2018年11月25日
- ・「2018年展覧会ベスト3」ウェブサイト『美術手帖』、株式会社美術出版社、2018年12月27日公開(<https://bijutsutecho.com/magazine/insight/19061>)
- ・「『小さいながらもたしかなこと 日本の新進作家 vol.15』評、揮発、沈殿、寸前であること」ウェブサイト『美術手帖』、株式会社美術出版社、2019年1月29日公開(<https://>

bijutsutecho.com/magazine/review/19238)

- ・「版木としての展覧会場 オールナイトハップスタンプ展覧会レビュー」『月刊アートコレクターズ』No.120、生活の友社、2019年3月
- ・「寄せ植えの跳躍あるいは抽象化一築地口UCO閉鎖にあたって」『アッセンブリッジ・名古屋2018記録集』2019年3月

#### ○副田一穂

- ・「建物の物語（ビルディング・ロマンス）『ビルディング・ロマンス——現代譚（ばなし）を紡ぐ』展」『美術手帖』4・5月合併号、70巻1066号、株式会社美術出版社、2018年4月
- ・「作品・資料の再配列（リアレンジメント）『モダニストの日本美——石元泰博「桂」の系譜』展」ウェブサイト『美術手帖』株式会社美術出版社、2018年4月
- ・「再現の際限『澤田華 見えないボールの跳ねる音』展」ウェブサイト『美術手帖』株式会社美術出版社、2018年5月
- ・「配慮と信頼『明治150年』展」ウェブサイト『美術手帖』、株式会社美術出版社、2018年6月
- ・（トークイベント）副田一穂、原田裕規「心霊写真／マツド」トークイベント、山下ビル、2018年7月15日
- ・「1. 落下する水、2. 雨樋、が与えられた場合の再現のグラデーションについて」ボン靖二『ホームセンター』Botaō Gallery、2018年7月
- ・「百年の古色『原田裕規 心霊写真／マツド』展」ウェブサイト『美術手帖』、株式会社美術出版社、2018年8月
- ・「自称美術作家の憂鬱、もしくは芸術作品の定義を回す」『アトラボあいち展覧会レビュー | 斉と公平太 グスタフ・フェヒナーもしくはベンハムの独楽』2018年9月
- ・「不自由なお絵かき」『ニューホライゾン | 平山昌尚＋二艘木洋行』TALION GALLERY、2018年10月
- ・（トークイベント）副田一穂、中尾拓哉、二艘木洋行、平山昌尚、「二艘木洋行／平山昌尚作品集『ニューホライゾン | NEW HORIZON』出版記念トークイベント」TALION GALLERY、2018年11月1日
- ・「REVIEW 田中藍衣 | 長田沙央梨 明るいアイロニー」『芸術批評誌REAR』42号、2018年11月
- ・「共同体の繕い方『蜜ノ木 くずれる家』展」ウェブサイト『美術手帖』、株式会社美術出版社、2018年12月
- ・「境界線を山折りに」花本彰太『BORDER』SHUMOKU GALLERY、2019年1月
- ・「写真がオブジェをつくる『坂田稔——『造型写真』の行方』展」ウェブサイト『美術手帖』、株式会社美術出版社、2019年2月
- ・「多肉植物と写真——下郷羊雄の可食的オブジェについて」『愛知県美術館研究紀要』25号、2019年3月

# 防 災

## 防災（2018（平成30）年度）

### 1 館内の体制

#### (1) 防災担当

2013年度より、従来の正担当1名、副担当2名という体制から、来館者等の「人」に対する正担当1名及び副担当1名、作品等の「物」に対する正担当1名と、担当内容を区分し明確化している。

#### (2) 内容とその方法

##### a 「人」に対する防災体制

出勤者が手薄な休日の発災を想定したシミュレーションミーティングを行った。防火・防災訓練はギャラリー利用者控室での自火報発報を起点に、初期消火に失敗する設定で来館者の避難誘導訓練を行った。また、管理部および指定管理者（愛知県文化振興事業団）と防災体制を確認し、「愛知県美術館災害時初動活動要領」の改正を行った。

##### b 「物」に対する防災体制

「人」に対する防災体制への取り組みを優先し、「物」に対する防災体制への取り組みは次年度以降の課題とした。

## 2 愛知芸術文化センターの防災体制

### (1) 愛知芸術文化センター防災会議

前年度に引き続き、管理部および指定管理者と防災に関する会議を行った。

### (2) 防災訓練

愛知県文化振興事業団と美術館とが各1回シナリオを作成し、計2回開催した。

## 3 愛知県の危機管理体制

2012年度以降、「愛知県の文化財に対する危機管理体制」の問題が指摘されてきた。2018年度は、文化財防災ネットワークが全国を6ブロックに分けた内、愛知県が含まれるブロックを統括する奈良国立博物館にて「中部・近畿文化財防災連絡会議」が開催された。ブロック内の各担当者が参加し、一部の担当者が事例報告を行ったほか、参加者間で今後のネットワーク構築のための意見交換等を行った。

## 4 その他

### (1) 全国美術館会議東海ブロック本部館としての活動

2011年度から引き続き、全国美術館会議「大災害時における連絡網実施要領」に基づく東海ブロック内での連絡訓練を、同

ブロック本部館である当館が中心となって3月11日に実施した。

### (2) 愛知県博物館協会としての活動

事務局を担当し、「災害発生時における支援活動要領」（平成27年度承認）に基づき、年1回の全加盟館による非常連絡訓練を実施した。また、より円滑な連絡体制構築に向けて、運営体制を一部改善し、事務局が集約した被災情報を文化遺産防災ネットワーク推進会議に報告する伝達経路を確認、日本博物館協会をはじめとする他協会との災害発生時の連携体制を整えた。

# ギャラリー（貸館）

## 美術館ギャラリー利用状況(2018年(平成30)年度)

### 1 展示室利用状況

(単位：日数)

区分 月別	日 利用 可能 数 a	利用 日数 b	利 用 率 b/a	展示室別利用日数											
				A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	審査保管室	
				室	室	室	室	室	室	室	室	室	室	第1	第2
2018年4月	0	0	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	0	0	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	0	0	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	0	0	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	0	0	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10	0	0	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11	4	4	100	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	5	0
12	23	23	100	23	23	23	23	23	23	23	23	23	21	3	24
2019年1月	23	23	100	23	23	23	16	23	23	23	23	23	20	21	14
2	24	24	100	24	21	21	21	24	24	21	24	24	24	20	8
3	27	27	100	27	24	24	18	21	21	18	27	27	27	9	22
年度計	101	101	100	101	95	95	82	95	95	89	101	101	96	58	68

### 2 展覧会種別利用状況及び入場者数

区分 月別	展覧会種別利用件数(件)									入場者数 (人)
	総合展	絵画展	彫刻展	工芸展	書道展	デザイン展	写真展	版画展	計	
2018年4月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11	1	0	0	0	1	0	0	0	2	4,008
12	10	3	0	1	4	0	0	0	18	26,008
2019年1月	7	1	0	0	3	0	0	0	11	23,877
2	2	2	0	1	0	0	1	0	6	50,473
3	5	5	0	1	5	1	1	0	18	32,589
年度計	25	11	0	3	13	1	2	0	55	136,955

備考 利用件数は、展覧会の初日が属する月で整理し、入場者数は、当該月で整理してある。

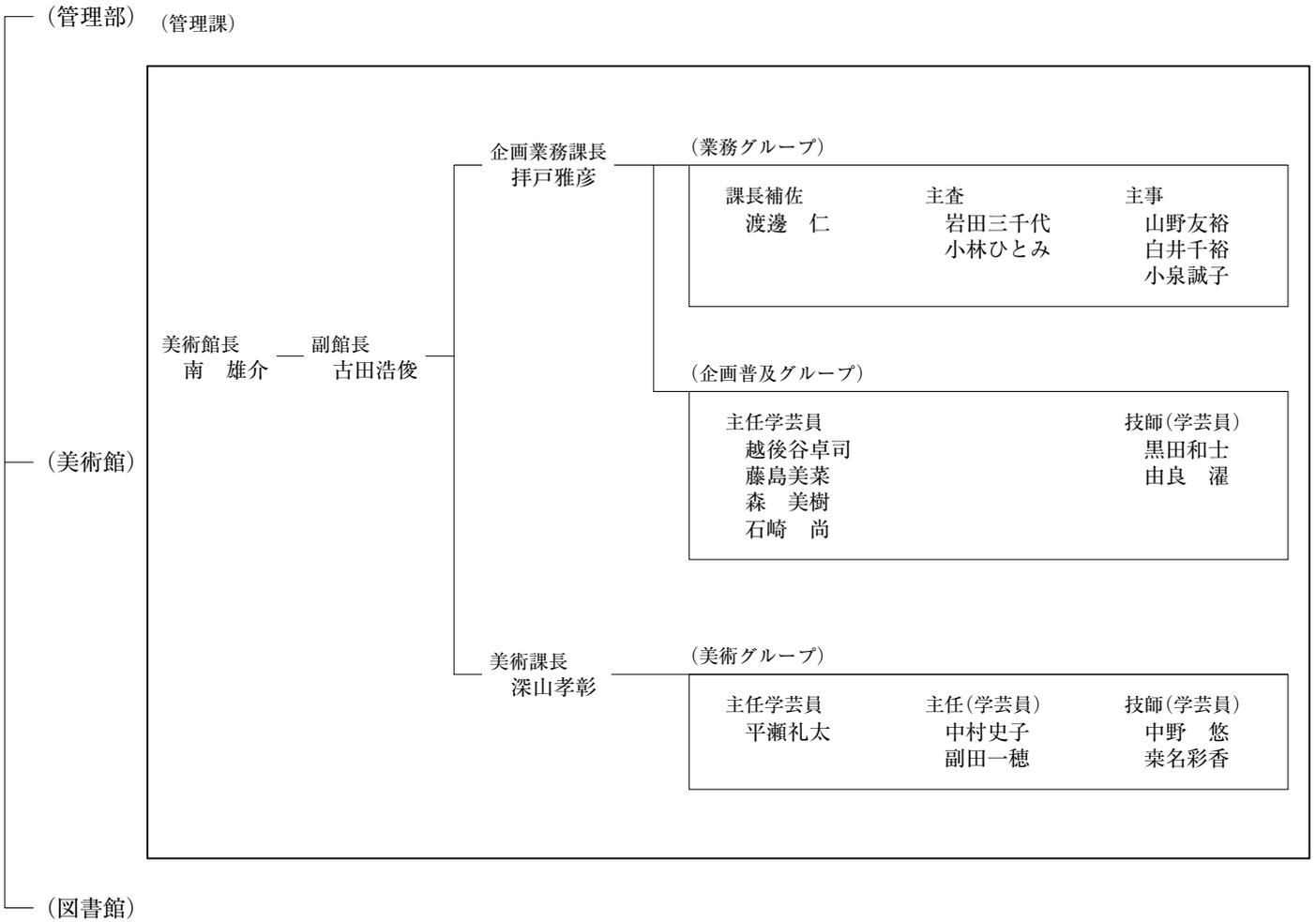




# 組織および職員構成

## 1 組織図

平成30年4月1日現在



## 2 愛知県美術館職員名簿

館長	南 雄介	主任学芸員	石崎 尚
副館長	古田浩俊	技師(学芸員)	黒田和士
企画業務課長	拝戸雅彦	技師(学芸員)	由良 濯
課長補佐	渡邊 仁	美術課長	深山孝彰
主査	岩田三千代	主任学芸員	平瀬礼太
主査	小林ひとみ	主任(学芸員)	中村史子
主事	山野友裕	主任(学芸員)	副田一穂
主事	白井千裕	技師(学芸員)	中野 悠
主事	小泉誠子	技師(学芸員)	栗名彩香
主任学芸員	越後谷卓司		
主任学芸員	藤島美菜		
主任学芸員	森 美樹		

# 関係委員会名簿

## 愛知県美術館専門委員会委員名簿

2019年3月31日

氏名	所属及び役職
加藤 磨珠枝	立教大学教授
小林 克敏	愛知県美術館友の会会長
◎ 白木 彰	愛知県立芸術大学長
園田 直子	国立民族学博物館人類基礎理論研究部教授
高北 幸矢	清須市はるひ美術館長
寺尾 晶子	中日新聞社事業局文化事業部長
丹羽 康雄	(公財) 愛知県文化振興事業団愛知県芸術劇場館長
野々川 房子	日本メナード化粧品(株)常務取締役 (メナード美術館アート・プロデューサー)
早瀬 弘親	名古屋市美術館長
○ 速水 豊	三重県立美術館長
松村 光洋	愛知県小中学校長会長
吉田 俊英	四日市市立博物館長

◎は委員長、○は委員長代理

(50音順)

## 美術館専門委員会ギャラリー部会委員名簿

2019年3月31日

氏名	所属及び役職
今井 瑾郎	彫刻家
大矢 英和	(公財) 名古屋市文化振興事業団市民ギャラリー栄館長
加藤 久	名古屋市博物館総務課長
佐藤 一信	愛知県陶磁美術館学芸課長
◎ 高北 幸矢	清須市はるひ美術館長
知崎 剛久	(公財) 愛知県文化振興事業団常務理事兼事務局長
○ 山田 美佐子	稲沢市荻須記念美術館長

◎は部会長、○は部会長代理

(50音順)

## 愛知県美術館美術品収集委員会委員名簿

2019年3月31日

氏名	所属及び役職 (専門)
天野 一夫	美術評論家・豊田市文化振興課副主幹 (近・現代美術)
加藤 弘子	東京都現代美術館事業推進課長 (日本近世・近・現代美術)
蔵屋 美香	東京国立近代美術館企画課長 (日本近・現代美術)
速水 豊	三重県立美術館館長 (日本近代・西洋近代美術)
◎ 村上 博哉	国立西洋美術館副館長兼学芸課長 (西洋美術)

◎は委員長

(50音順)

愛知県美術館年報2018年度版

編集  
発行

2020(令和2)年3月発行

愛知県美術館

愛知県美術館

名古屋市東区東桜1-13-2

〒461-8525

Phone : 052-971-5511

Fax : 052-971-5604

表紙デザイン・本文レイアウト  
印刷

共生印刷株式会社

共生印刷株式会社

**Annual Report 2018, Aichi Prefectural Museum of Art**

**Edited by the Aichi Prefectural Museum of Art**

Published by the Aichi Prefectural Museum of Art

1-13-2 Higashisakura, Higashiku, Nagoya 461-8525, Japan

Designed and laid out by Kyosei Printing Co., Ltd.

Printed by Kyosei Printing Co., Ltd.

©2020 Aichi Prefectural Museum of Art

Printed in Japan